

令和5年3月3日

「2050年カーボンニュートラルシティ実現に向けたロードマップ（案）」 パブリックコメント制度の実施結果について

「2050年カーボンニュートラルシティ実現に向けたロードマップ（案）」について、パブリックコメント制度によりご意見を募集したところ、次のとおりご意見をお寄せいただきました。貴重なご意見をありがとうございました。

いただいたご意見の内容とそれに対する市の考え方を公表いたします。

1. 募集期間

令和5年1月10日（火）～令和5年2月10日（金）

2. 意見の提出方法と人数・件数

提出方法	人数（人）	件数（件）
窓口持参	2	11
電子メール	0	0
郵送	0	0
FAX	0	0
ウェブサイト	3	13
計	5	24

3. 反映状況

反映状況		件数（件）
◎	案に反映したもの	12
○	既に案に盛り込み済みのもの	4
△	今後の参考とさせていただくもの	8
×	反映できないもの	0
計		24

<2050年カーボンニュートラルシティ実現に向けたロードマップ>
パブリックコメントでいただいた意見の内容と市の考え方

No.	ページ	該当箇所	意見の内容	市の考え方	反映状況
1	P4	1. はじめに	この項はIPCCや図書館の地球温暖化に関する本からのピックアップだ。地球温暖化を炭素のせいだけにしてはいけないと思う。	P5、P13に記載の通り、温室効果ガスについては二酸化炭素以外にも存在します。出典等は主に二酸化炭素についての記述となっておりますが、温暖化抑制のためには温室効果ガス全体の削減に取り組む必要があることを踏まえて策定しています。	○
2	P9	1. はじめに (7) カーボンニュートラルとは	森林吸収の具体的方策がほしい 4ページ 9ページ 植林、森林管理などによる「吸収量」ロードマップの説明や32ページ すそのDEカーボンの「(4) “見える化”後の政策の考え方について」に続く 「各部門における課題・取組み」に農林業への対策がないのが惜しい。 黙っていても森林がCO2を吸収するのではなく、植林、老朽樹木の伐採を繰り返していかなければ、森林は荒れ果てるばかりでなく、CO2吸収量も限られます。 裾野市内の森林のCO2吸収量を数値化するのはもちろんですが、市としても、森林贈与税の活用等で、間伐以外にも森林管理の方策をロードマップに入れることを提案します。	森林の適切な管理による二酸化炭素吸収の重要性とご意見を踏まえ、P46「その他取組みについて」項目中に、「●植林や間伐、老朽樹木の伐採など、脱炭素に向けた適切な森林管理手法を検討していきます。」として追記しました。	◎
3	P14	2. 裾野市の現状 (3) CO2排出の状況(裾野市全体の状況)	「(※2) 第2次裾野市環境基本計画の数値とは異なります」について、理由を簡潔に入れた文面が良い。 例) 環境基本計画とは排出量の算定方法が異なります。	算出方法の違いについても追記しました。	◎
4	P15	2. 裾野市の現状 (4) 各部門の排出量推移について	業務部門、家庭部門、廃棄物処理部門で「2005年度と比べて」という記載があるが、2005年度お比較するデータは示されていない。 2005年度と比較する必要があるのか？2005年度比の記載は不要ではないか。	2005年度比の記載を削除しました。	◎
5	P17	2. 裾野市の現状 (6) 再生可能エネルギー導入ポテンシャル	「導入ポテンシャル(電力)は、ほぼ同量を誇ります」と記載があるが、同量だと何が「誇らしい」のか、具体的に示すか、削除すべきではないか。 示す場合の例) ほぼ同量であり、再生可能エネルギーの導入に向けた積極的な取組みを行うことで、電力のカーボンニュートラル実現の可能性があります。	ご意見を踏まえ、文章を修正しました。	◎
6	P17	2. 裾野市の現状 (6) 再生可能エネルギー導入ポテンシャル	温泉が出ると思うので地熱発電に力を入れれば良いかと思いません。	再生可能エネルギーの導入については、裾野市の特性や経済性等を踏まえて検討していきます。	△
7	P22	3. 裾野市のCO2削減目標	目標のグラフは2050年の160千トンぐらいを設定し対象年度に数値を当てただけの様。	国の温暖化対策の目標年度に合わせ、2030年度に46%削減、2050年度にカーボンニュートラル達成を図示したものです。分かりやすさの観点から、2050年度の図を修正しました。	◎
8	P26	4. カーボンニュートラルで実現する姿&ロードマップの全体像 (2) ロードマップの全体像	「『すそのdeカーボン』に基づいた施策」について、35ページ以降の「各部門における課題・取組み」に合わせ、「『すそのdeカーボン』実現に向けた排出量削減の取組みを展開」と表記すべきではないか。	分かりやすさの観点から文章を修正しました。	◎
9	P28	5. 裾野市独自「すそのdeカーボン」	何をどの様に計測しどの数値まで削減・変容・高度化する程度をぜひ盛り込んで欲しい。測定の方法、目標値がないと後で検証することが出来ない。	「すそのdeカーボン」は、使用する数値や手法も含め、協力事業者とともにその構築を図っているところです。本ロードマップは道筋を示すものとしてその概要を発表していますが、実施する対策などの効果検証が可能なものとする予定です。	△

<2050年カーボンニュートラルシティ実現に向けたロードマップ> パブリックコメントでいただいた意見の内容と市の考え方

No.	ページ	該当箇所	意見の内容	市の考え方	反映状況
10	P30	5. 裾野市独自「すそのdeカーボン」 (2) 「すそのdeカーボン」について	対策の積み上げに基づく目標達成 「5すそのdeカーボンの項目」は、対策が見えず目標値の説明が主な印象を受けました。対策として何を実施するのかは、次章以下の 6. 各部門における課題・取組み 7. 市役所の取組みで個別に説明してあります。すそのdeカーボンの項目一体で説明できるような資料になりませんか。 目標値の設定はバックキャスティングで設定 対策の積み上げではないので企業からの理解が得られるかどうか疑問です。	本項目は、「すそのdeカーボン」が見える化を軸としたPDCAサイクルをご説明し、正確な温室効果ガス排出量の把握が重要であることをお示しするものです。 また、域内企業については、対話の実施により協力を求めています。	○
11	P35	6. 各部門における課題・取組み 3. 排出量削減目標と2030年に向けた取組み	企業に対する表彰は効果的か・・・ 表彰制度は基準も難しいことや、また市民協働の観点から行政と市民は本来対等であるべきで、表彰制度が間接的にも効果をもたらすかどうかは疑問なところがあります。 また表彰基準についても、CO2測定の基準が省エネ法以外は、企業ごと統一されていないことなどCO2排出が完結するものではないため評価がむずかしいところもあります。ここは、表彰対象を変えて、企業よりも、個人や学校、NPOなど温暖化防止に活動を対象に変更してはどうでしょうか。	産業部門の表彰制度等については、その運営手法については様々な検討を行っています。「協力事業者を登録する制度等」と記載している通り、すそのdeカーボンを実現するにあたり、見える化に参画していただくことも企業による協力と考え、その点を評価することも検討しています。企業との対話を踏まえ、決定していきます。 家庭部門における表彰制度等については、その対策を実施していく中で、導入を検討していきます。	△
12	P35	6. 各部門における課題・取組み 3. 排出量削減目標と2030年に向けた取組み	35ページの topic案としては、市内企業との協定等により、CO2削減の技術開発事業の技術連携としたほうが、今後、環境優良企業の誘致等を考えるとよいのではないのでしょうか。30ページのすそのDEカーボンにあるとおり「裾野市の新たな発展や市民・事業者の積極的な参画を促し」が大切です。	P48に記載の通り、先進技術と脱炭素に向けて各事業者と連携を深めていきます。	○
13	P36	6. 各部門における課題・取組み	以前に発表された市の人口予測では市の人口は85%程減る。何もせず15%減。見える化するだけが目的の取組みになってしまうか恐れる。NEBを取り込むようなビルは裾野にはほとんどないと思う。	P29に記載の通り、人口減少によらないCO2削減を行うために「すそのdeカーボン」を構築します。	○
14	P36	6. 各部門における課題・取組み 1. 現状 対象となる排出	市役所が何部門にあたるか、表記したらどうか。	「公務」を追記しました。	◎
15	P38	6. 各部門における課題・取組み 2. 課題 気候変動に関する世論調査	「あまり／全く取組みたくない」とあるが、同一ページ内に記載の計算式で「／」を使用しており、計算式に見えてしまう。	分かりやすさの観点から文章を修正しました。	◎
16	P43	7. 市役所の取組み 1. 現状	市役所が業務その他部門に該当する場合、2019年は業務その他部門70千トンに対し、市役所は13千トンと18.6%を占める。 市役所が「率先して」取組む重要性も記載したらどうか（P14記載のとおり「第2次裾野市環境基本計画」と算定方法が異なる場合は比較ができないかもしれないが）。	市役所とし温暖化対策に率先して取組む姿勢を表現するため、文章を修正しました。	◎
17	P43	7. 市役所の取組み 2. 課題 温室効果ガス削減目標	P22では裾野市の削減目標が「2030年度46%削減」となっているが、本ページで出典としている第3次裾野市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の目標数値は「2030年度40%削減」となっている。 目標の見え方としてどうか。	P43に記載のとおり、市役所の施設別排出割合は市民生活に直結する上位3施設（美化センター、配水場、ヘルシーパーク裾野）で82%となっており、いずれもライフラインの維持に関わる施設であることから、削減計画を慎重に定め、市民生活の向上と両立させていく必要があります。 一方で、市役所が率先して高い目標を掲げることは重要であり、市内全体の目標を踏まえて修正しました。	◎
18	P45	7. 市役所の取組み 「『電力』の使用について、 「『燃料の使用』『公用車の燃料』について」	「電力の使用」「燃料の使用」の考察、今後の取組みの方向性について、統廃合などによる施設の総量削減（ファシリティマネジメントの観点）の記載が必要ではないか。	施設等の統廃合についての文章を追記しました。	◎

<2050年カーボンニュートラルシティ実現に向けたロードマップ>
パブリックコメントでいただいた意見の内容と市の考え方

No.	ページ	該当箇所	意見の内容	市の考え方	反映状況
19	P46	7. 市役所の取組み	コスト試算 全体を通して、カーボンニュートラルにかかる社会資本投資の金額の試算がロードマップにも必要です。弊社でも、かなりの設備投資がかかるので頭の痛いところです。	今後の対策推進にあたっては、財政状況等を踏まえながら事業を実施することを検討していきます。	△
20	P46	7. 市役所の取組み	環境配慮型都市計画 「7. 市役所の取組み」とは少し概念が広がりますが、特にこのプランにはなかったのが、環境配慮型企業団地への環境優良企業の誘致、その他産業政策など都市計画や近隣市町との広域連携等コンパクトシティ推進なども、対策としてありますが、市の取組みとして対策してはいかがでしょうか。	脱炭素を主要なテーマとした近隣市町との広域連携については、定期的に検討を重ねております。ご提案の取組みについても考慮におき、対話を行っていきます。	△
21	P46	7. 市役所の取組み 配水場・美化センターの電力について	配水場・美化センターの電力について、2施設で42.7%を占めているから重要だと思うが、その他施設も「40%」を占めている。その他施設についても削減に向けた総量削減の言及が必要では。	他の施設についても取組み対象とすることを明記しました。	◎
22	P48	8. 地域特性を活かした脱炭素取組み	24年には稼働するであろうウーブン・シティの構想を市全体にも取り入れて欲しい。ウーブン・シティはカーボンフリーと言われているし、地域における水素エネルギーの活用も学べる。水素ステーションもトヨタ単独使用だが、公用車は燃料電池車に変えてゆく。建替されるであろう美化センターにも水素発電など導入する計画を持ってほしい。裾野市はそういう環境に恵まれた。教を乞い利用しない手はない。	ウーブン・シティはトヨタグループ会社敷地内で建設するものです。一方で市役所としても連携してまちづくりを行っていく予定であり、水素活用についても今後の普及を見据えて協力体制の構築を検討していきます。	△
23	P50	9. カーボンニュートラル推進体制	評価検証と本ロードマップの位置づけ 評価検証機関として52ページにあります作成機関又は環境審議会などで 評価していただくところを設けてはどうでしょうか。ロードマップの位置づけは、環境基本計画の中に取り組むことを提案します。	環境基本計画は裾野市環境基本条例に基づき作成されており、環境審議会は「環境の保全及び創造に関する基本的事項について調査し審議するため」に設置されています。本ロードマップはその具体的な取組みの方向性を示すとともに、将来の環境変化にも柔軟に対応するため、環境基本計画の理念を実現するものとして位置付けています。 また、適切な評価の手法については今後も検討していきます。	△
24	-	-	カーボンニュートラルに対する裾野市がかかざるコストに対する考えは？政府の債務超過からの財政破綻が2036年とする報告がある。地方財政がなりたたなければ、経済破綻しカーボンニュートラルの実現はありえないと考える。高齢化、少子化が進む中なかで2050年の実現を考えることより、5年ごとに達成目標を実現することを考えるべきではないか。	現在、裾野市では財政状況を踏まえ、優先度・将来性を見極めた事業の選択を行っています。カーボンニュートラルに向けた今後の対策についても、同様に財政状況を見据えたものとしていきます。 また、5年等短期の目標設定も今後検討していきます。	△